

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100147		
法人名	株式会社クローバー		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	宮崎県宮崎市新別府町前浜1401-259		
自己評価作成日	平成23年1月18日	評価結果市町村受理日	平成23年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kokuhoren-miyazaki.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590100147&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは、市街地郊外の静かな一角に位置し、グループホーム目的に建設された機能的で安全重視の家庭的な雰囲気の家屋である。大型ショッピングセンターや喫茶店、ホテル、神社等近くに、川と生活道路の間に市民の憩いの場である公園等もあり、静かで落ち着ける場所である。法人は同敷地に有料老人ホームを有し、現在、道路を挟んだ場所に新たにグループホームクローバー2番館を建設。現在、入居者との交流もある。職員のほとんどが開設当初から勤務しており、経験豊かで利用者本人の対応と、法人の理念である「優しいまなざし、穏やかな言葉、にこやかな笑顔」で寄り添い、常に笑顔で接することを心がけている。利用者は、出来ること、したい事をしながら穏やかに生活をおくられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの行事や日々の生活ぶりを「園だより」として毎月発行している。更に、3か月ごとに個人のエピソードがより詳細に写真とともに編集されて届くので、家族に暮らしぶりが具体的に理解され安心につながっている。寄り添うケアの中で、利用者の思いを察知、認識することを目標に掲げており、利用者はベテランの職員に囲まれ、穏やかな表情でゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年10月にリーダー研修に参加した職員が、施設内研修で理念についての勉強会、研修を行い、理念をよく噛みしめて今の介護に生かせるようになった。	ホームの理念を朝礼時に確認することで、職員は理念を共有し、日々の介護を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、毎月地域の情報が得られたり、回覧番を回覧する際、近隣との情報を頂いている。近隣の方から季節の花々を頂き交流がある。	自治会に加入し、地区の行事が把握できるようになった。利用者が参加できる機会をつくり、地域との交流を検討している。ショッピングモールや喫茶店が近くにあり、日常的な外出の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域貢献が出来ないかご意見を頂いているが、未だ具体的に方法が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、地域包括支援センターの担当者と家族との2ヶ月に1回の運営推進会議を実施している。会議メンバーからの意見交換は、利用者様に対してもケアに生かして、職員も勉強になっている。	自治会長、民生委員、地域包括支援センター、家族全員を委員として、隔月に開催している。ホームが目指す地域との交流などの助言を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者に出席して頂き、市の代弁者との役割をして貰っている。	グループホームの増設で市の担当課に相談や指導してもらった機会が多かった。当ホームについても外部評価の改善計画書を提出し、助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア講習会に参加し、勉強会等を行い正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束について理解している。ホームが道路と河川に面している上、入り口が転倒しやすい構造であること、強い外出企図の利用者がいることを理由に玄関が施錠されているが、閉そく感を感じないように窓やドアを開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修会の参加や、月1回の勉強会に研修会での内容を報告。理解と虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について職員は理解しているが、制度を必要とする利用者はいないので知識はあまりない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず重要事項を説明し、納得して頂いてから契約書を作成している。2部作成をし、家族と施設で1部ずつ保管している。また、解約時は、家族と今後の事を十分に検討した上で解約届けを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置し、いつでもご意見頂けるように配慮している。家族の面会時、利用者・家族の意見・要望など言いやすい場面を作る機会に配慮している。	家族の意見があれば連絡ノートに記録し、職員が共有する仕組みがある。ホーム開設当初に家族会結成について検討したが、実現しないうちに経過してきた。職員も家族とともにホームの運営を図るために、家族会の必要性を認識している。	ホームの運営や利用者にとって、個々の家族の意見や要望をまとめたり行事に参加する等、家族会の役割は大きい。家族も職員も必要性を認識しており、2号館開設にあわせて家族会の発足を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、その都度朝礼等で聴き、職員全体で生かしている。毎月の勉強会や毎朝のミーティングでも意見を聞き、運営に反映させている。	管理者は、勉強会やミーティングの場で、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気や職員の意向を代表者につなぐ役割を持ち、職員が生き生きと働き続けるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、週に1回朝礼に参加してもらい施設の現状を把握してもらっている。又、処遇については、夜勤者に夜食代の負担をしてもらったり、研修費も会社が負担してくれスキルアップに努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会等、職員が参加出来る体制を作っている。外部研修での報告書の内容は、全職員で共有し、報告書を作成している。資格取得を目指す職員に支援体制も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で研修会等に積極的に参加し、同業者との意見交換を行っている。講習会などで得た知識を毎月の勉強会として、他の職員とも情報を共有し、サービスの向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から得られる生い立ち等の情報や、ご家族の面会時の情報等、生活を共にする中で喜び等、共有を行い、笑顔の有る生活となるように受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の状況確認を行い、面談や電話等を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの要望やご本人との会話の中で、情報を汲み取り、アセスメントをスタッフ全員で行い、サービス担当者会議で話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、利用者と共に過ごし、支え合う関係を大事にしており、傍に寄り添い一緒に過ごし、家庭的な関係を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時やサービス担当者会議の際、本人の状況等報告・相談・必要時には、電話等を行いながら、本人を支える協力をして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の親戚や知人の面会には、本人とゆっくり会話が出来るよう配慮している。また、気楽に来訪して頂けるよう職員一同努力している。	家族以外の友人や知人の訪問は、しだいに減少傾向にあるが、こまめに声かけして家族の協力を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、心身の状況を把握し全員が支え合える関係であるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者やその家族からの相談には、随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、一人ひとりの思いを尊重し、日々本人との関わりの中から状況を把握、気づくよう努めている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式)の24時間シートを用いたり、言葉や表情を記録し、勉強会を通して利用者一人ひとりを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方の継続する生活支援の為、家族や関係者から、本人の状況、経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ること、出来ないこと、心身状況を把握して、出来る事を維持し、出来る事を一つでも増やして、共に喜ぶ努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人心身の状態、生活の様子、変化等を毎日の記録やミーティングで検討し、家族の了解の下、介護計画の見直しを行っている。	利用者の日々の生活は意向に沿ったものであるか、毎月モニタリングが行われ、家族、管理者、担当職員が定期的に話し合い、介護計画を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を毎日記入する。介護日誌や個別のケース記録、バイタルサイン、排泄チェック、食事摂取で情報を共有し、サービスを実践、見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況確認を行い、面談や電話等を実施している。状況に応じ、外出希望の強い人や帰宅願望の強い人等の要望時には、地域へのドライブ、散歩等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	クリスマスにボランティアの方による舞踊・昔の語り・紙芝居等の訪問をして頂いたり、地域の消防隊の協力の下、年に2回、消防訓練を行っている。又、利用者に外の空気を感じてもらふ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自施設の協力医はわたようクリニックで、2週間に1回往診して頂き、特変時は24時間対応して頂いている。又、昔から馴染みの病院があればご家族様の協力で受診して頂き、家族と連携を図っている。	通院は家族が同行し、往診はホームで対応しているので、家族に対する診察結果の報告について検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師との連携を取って、健康管理の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、情報提供書にて情報の共有を行う等、安心して過ごせるよう配慮し、また、随時病状を把握し、退院後のケアについても相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設では医療行為が出来ないため、胃瘻等に対応が出来ず、昨年1人、別の施設に移動した。ただ、協力医と連携が図れているので、終末期は対応していきたい。	ホームでは家族等の希望に応じたいという意向を持っているが、現状では重症化すると他施設へ入所、または入院となっている。	重症および緊急時の医師の方針や対応、職員配置や訪問看護の導入、家族の見守り等、終末期の対応にはそれぞれの役割を共通の理解の下、ホームの基準を作り上げ、全職員で取り組んでいただくことを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット等を書いて貰い、利用者の急変や事故発生時に備え、勉強会、朝のミーティングの際に対策を講じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団に年2回協力頂き、避難訓練を実施し、その都度火災時マニュアルの見直しを行っている。又、そのマニュアルは全員が目届く所に掲載し、勉強会でも確認している。	火災については年2回の避難訓練、系列施設からの応援態勢やマニュアル作成と勉強会が実施され、近く夜間を想定した訓練計画もある。ホーム内では調理はせず、喫煙する利用者もいないため、予想される出火は少ないが、コンセント管理を行うなど、防火意識が高い。	ホームが立地する場所は、津波や河川の氾濫時の災害が予測されることから、近接のホテルの利用案を具体化されるとともに、更に、ホテルへの協力依頼を行い、具体的な課題を持った取組に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には尊厳あるケアを目指し、目立たずさりげない言葉かけや対応がされている。記録等、個人情報の取り扱いも適切である。	個称は本人や家族が希望する姓か名を使い、ケアや言葉かけに留意し、慣れによる対応をしていないか振り返っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が、気兼ねなく自分の思いや希望を話せる雰囲気を作り、個々に合わせた説明、言葉かけを行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭のような生活、家庭の継続というホームの方針で、一人ひとりの状況に合わせ、その日、その時の本人の希望に沿った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望や要望により、理美容は大型バスでの来訪で行っている。毎日の服や整髪、髭剃りなどは声掛けし、自力で出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注による食事提供をしているが、利用者も職員と一緒に盛り付け、配膳、片付け、台拭きを行っている。	外注であるが、盛りつけや配ぜんは職員とともに利用者ができる内容で参加している。利用者の好みなどは、給食委員会で検討され、献立に反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成している。食事量や水分摂取量は、毎日チェック表があり適切に支援されてる。又、月に1回給食会議を開催、一人ひとりの状態に合わせ体重増減、食事形態に合わせ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨き、うがいを行い、自分で出来る方は自分でやっている。入れ歯の方は、夜寝る前に洗浄剤で洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示困難の見られる利用者の方は、声掛け・排泄サインを見逃さないようにしている。トイレでの排泄を気持ち良く出来るよう排泄パターンを把握、声掛け誘導し、支援している。	尿、便意がなくても、排泄パターンの記録や固有の動作を把握して誘導し、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、排泄チェックを行い、水分補給や食事の配慮、運動を誘導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週2回、利用者一人ひとりの入浴希望を察知して、午前と午後に入浴を行っています。入浴をためらいがちな利用者へも、細心な配慮を行い支援しています。	週2回の回数は昨年同様であるが、午前、午後の好きな時間帯にゆったりと入浴できるようにした。立位困難な利用者が多くなり、浴槽に浸かってもらうために、2名で介助している。	身体介護度の高い入浴介助について、職員の勤務体制の工夫や設備、備品等を検討し、利用者個々に合った入浴支援への取組を望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、利用者一人ひとりの生活習慣や状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法用量について、職員は理解・共有し服薬の支援を行っている。症状の変化については、主治医との連携を行い確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝体操を行っている。本人の希望に合わせてカラオケやちぎり絵、植木の水やり、本人の状態に合わせ、家事等が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社を散歩したり、ショッピングへ買い物や季節に応じてお花見やドライブ等、定期的な外出も支援している。	職員の減数により昨年ほどは外出できないが、ホーム近辺には公園や神社およびショッピングセンターがあり、散歩や日常的な外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望で少額については、本人が所持している。ご家族より預かったお金は職員が管理しているが、買い物などの際は、本人が所持し、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って行えるよう支援している。電話の取り次ぎなどを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、天井が高く広々としており、日当たりが良い。利用者にとって不快や混乱を招くような刺激もなく、ゆったりと腰掛けのソファや椅子があり、利用者や訪れた家族がゆっくりと過ごせるスペースになっている。	利用者のほとんどは、昼間は自室でなく食卓やリビングで過ごしている。ホーム内には天井からの採光があり、リビングは高い天井と天窓で一層明るく伸びやかな趣がある。職員の指導でちぎり絵や唱歌など好みで参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや椅子を配置し、何時でも気楽に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が椅子やタンス・テレビ、馴染みの物を持ち込んで頂いたり、居心地よく過ごせる居室になっている。	写真と名前の書かれた表札があり、ベッド以外はそれぞれ好みで持ち込み、利用者によっては掃除を職員と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、家事への協力をお願いしたり、出来る工夫をしている。		